

第28回（令和5年度第1回）
セーフコミュニティ 交通安全対策委員会

《会 議 次 第》

日時：令和5年4月17日（月） 13:30～

場所：久留米商工会館 5階 大ホール

1. 報告事項

(1) 今後の主なスケジュールについて・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料1

(2) 久留米市における交通事故の現状について・・・・・・・・ 資料2

2. 協議事項

(1) 2022(令和4)年度実績及び2023(令和5)年度方針（案）について・・ 資料3

(2) 3回目の認証取得に向けた本審査について

①現地審査スケジュール・活動視察・・・・・・・・ 資料4

②申請書・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料5

③プレゼン資料・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料6

3. その他

(1) 合同対策委員会に関する報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料7

久留米市セーフコミュニティ交通安全対策委員会 委員名簿
兼 久留米市交通安全対策協議会 幹事名簿

(順不同、敬称略) 任期: R7.7.31まで

	団体等名称	委員名	その他
1	○ (一社)久留米市交通安全協会	白倉 雅夫	
2	久留米市交通安全指導員	服部 昌子	
3	久留米地域交通安全活動推進委員協議会	西田 満	
4	久留米安全運転管理連絡協議会	赤松 義光	
5	◎ 久留米市老人クラブ連合会	小西 範武	
6	久留米市小・中学校PTA連合協議会(中学校)	田中 純子	代理(小松 伸広)
7	(社福)久留米市社会福祉協議会	深川 剛	
8	久留米市校区まちづくり連絡協議会	深山 和義	
9	福岡国道事務所久留米維持出張所	田中 貴弘	
10	福岡県久留米県土整備事務所	平林 覚	
11	久留米警察署(交通第一課)	工藤 佳之	
12	うきは警察署(交通課)	岡崎 正樹	
13	久留米市健康福祉部長寿支援課	古賀 昭彦	
14	久留米市都市建設部道路整備課	濱浦 隆之	
15	久留米市都市建設部交通政策課	田中 吉成	
16	久留米市教育部学校教育課	古賀 友理子	
17	久留米市協働推進部安全安心推進課	柳 秀昭	

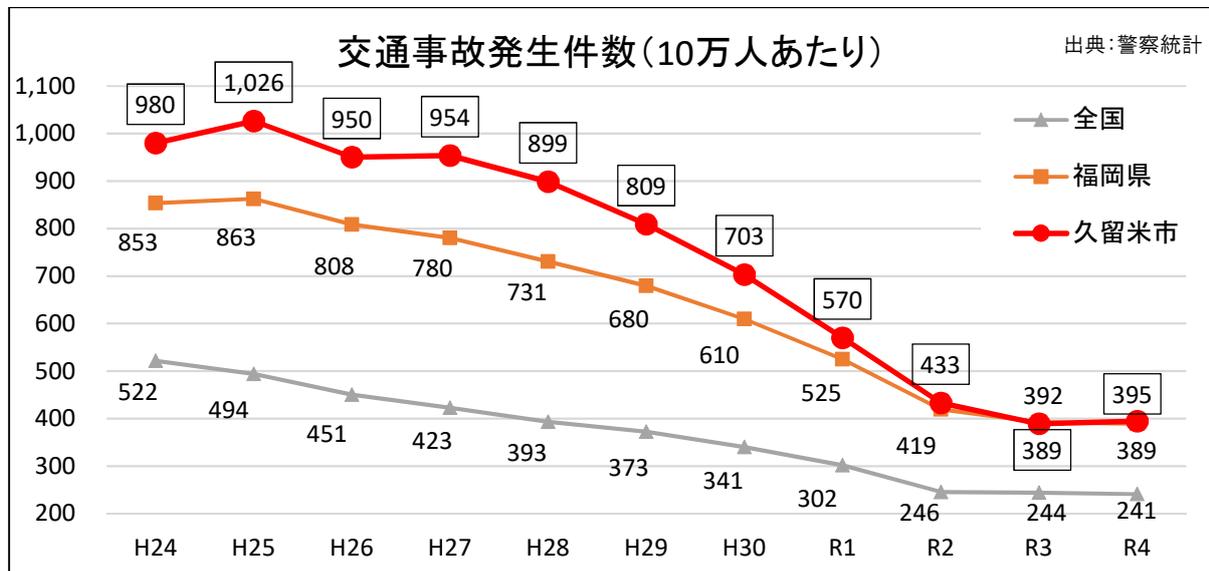
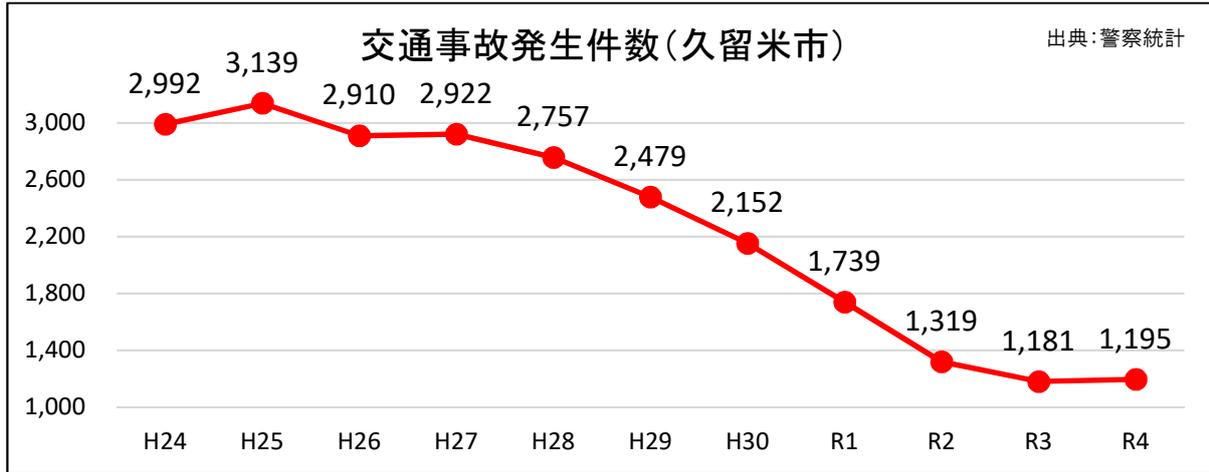
事務局: 協働推進部安全安心推進課

(一社): 一般社団法人	(公社): 公益社団法人
(社福): 社会福祉法人	(特非): 特定非営利活動法人

◎: 委員長
○: 副委員長

久留米市における交通事故の現状

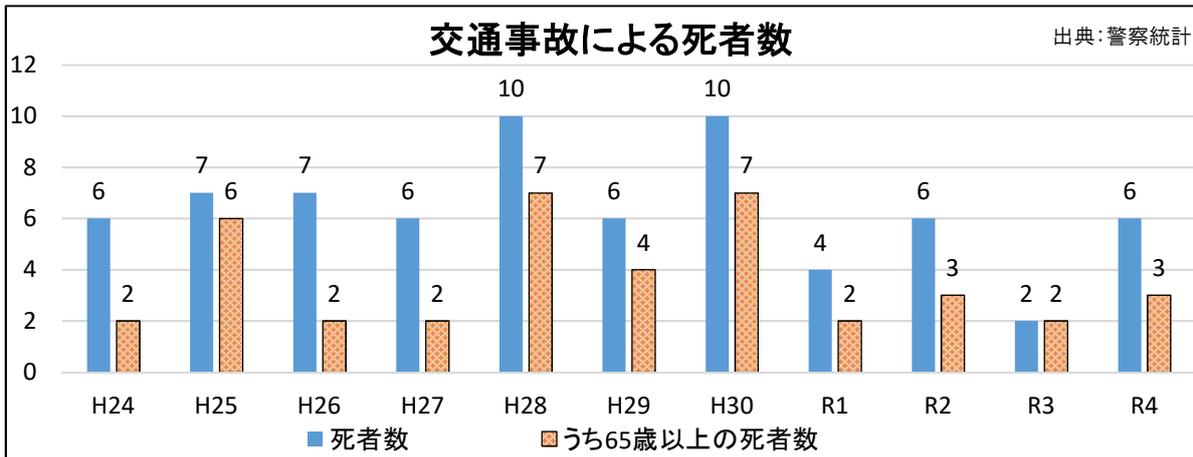
① 交通事故発生件数



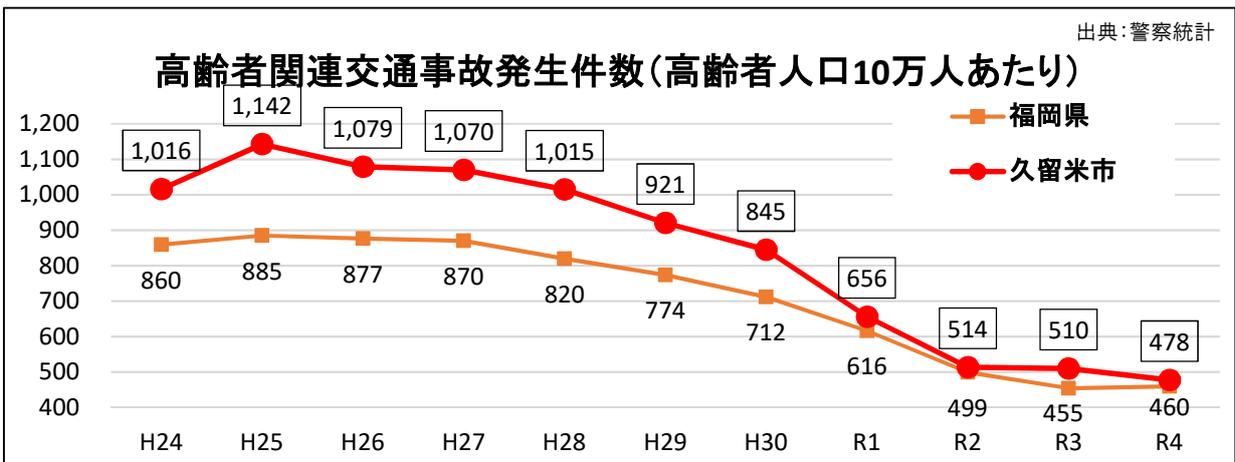
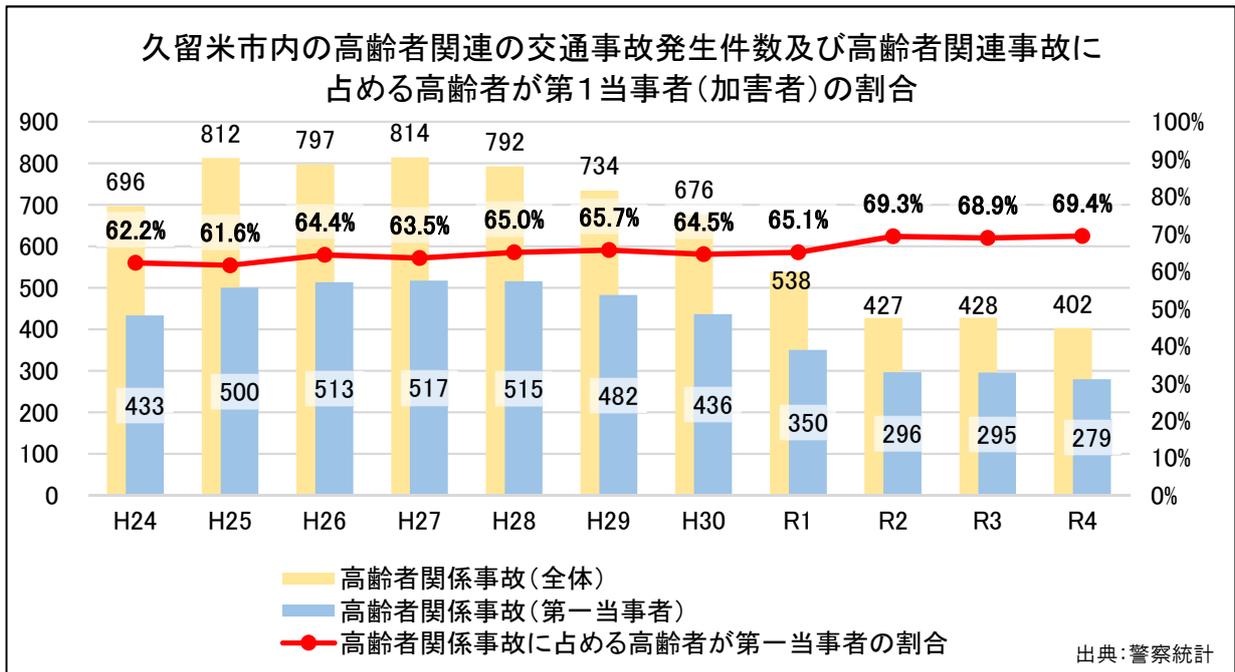
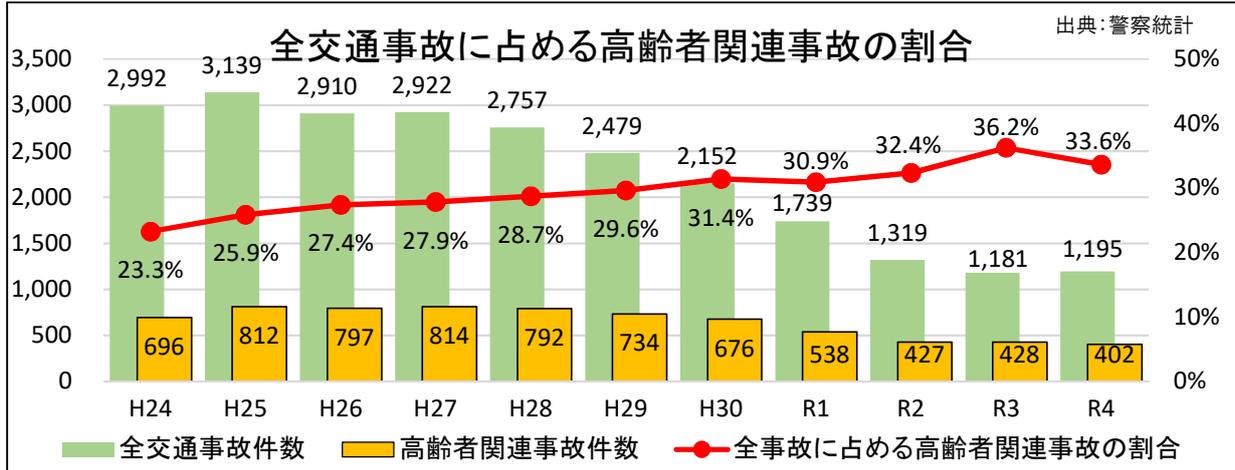
久留米市内の交通事故発生件数は減少傾向で推移している。
 10万人あたりでは、令和3年は県を下回ったが、令和4年は再度件を上回った。
 全国と比較すると高い状況が続いているが、差は縮小傾向にある。

② 令和4年中の交通死亡事故(久留米市内)

- ★交通事故による死亡者：H30 10人 R1 4人 R2 6人 R3 2人 **R4 6人**
- ★6件中3件が高齢者関連
- ★飲酒運転による死亡事故なし



③ 高齢者の交通事故発生件数

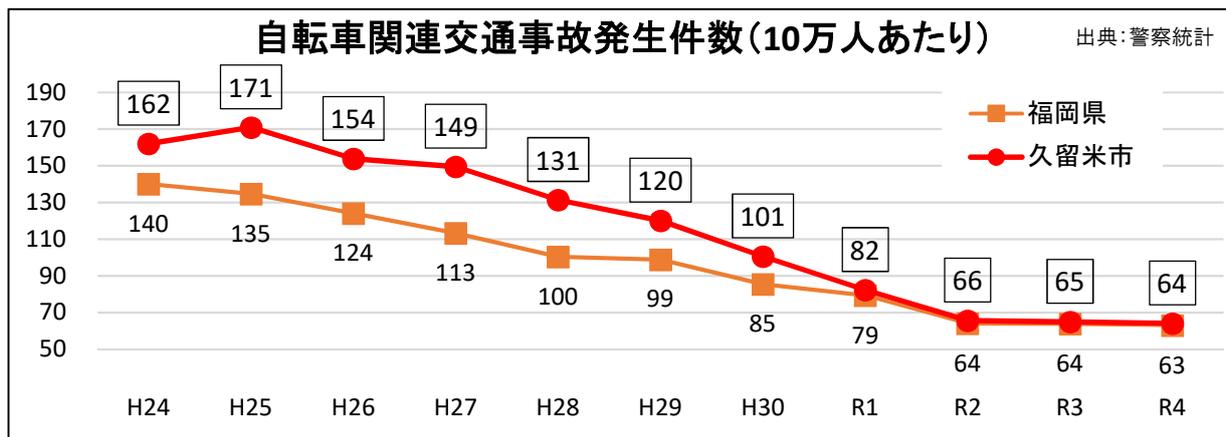
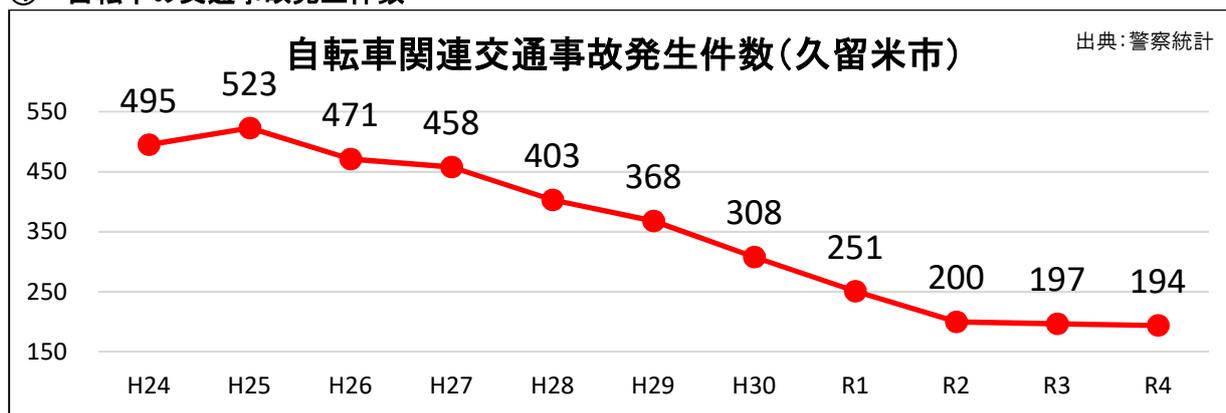


高齢者の交通事故発生件数は減少傾向であるが、全事故に占める高齢者関連事故の割合は、増加傾向にある。

高齢者が加害者となる事故発生件数も減少傾向にあるが、高齢者関連事故に占める割合は、増加傾向にある。

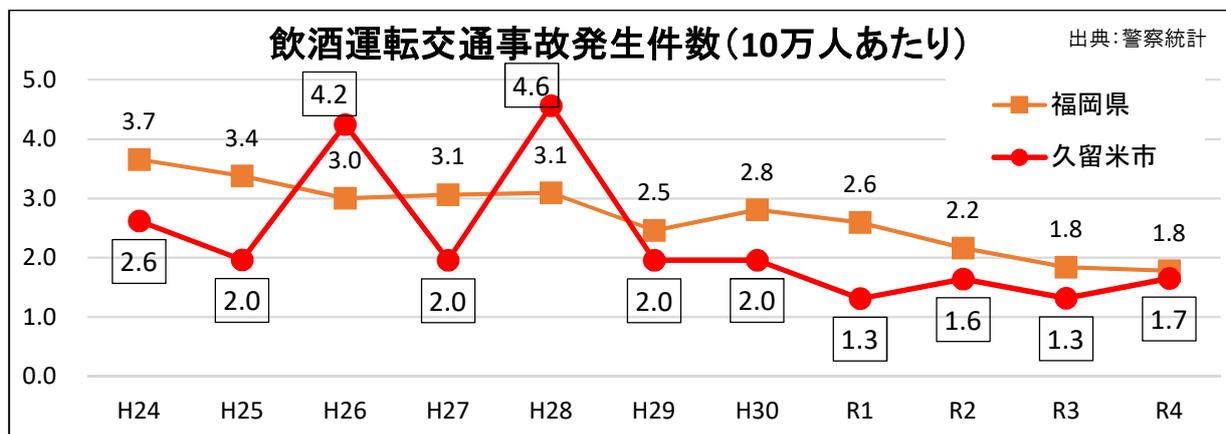
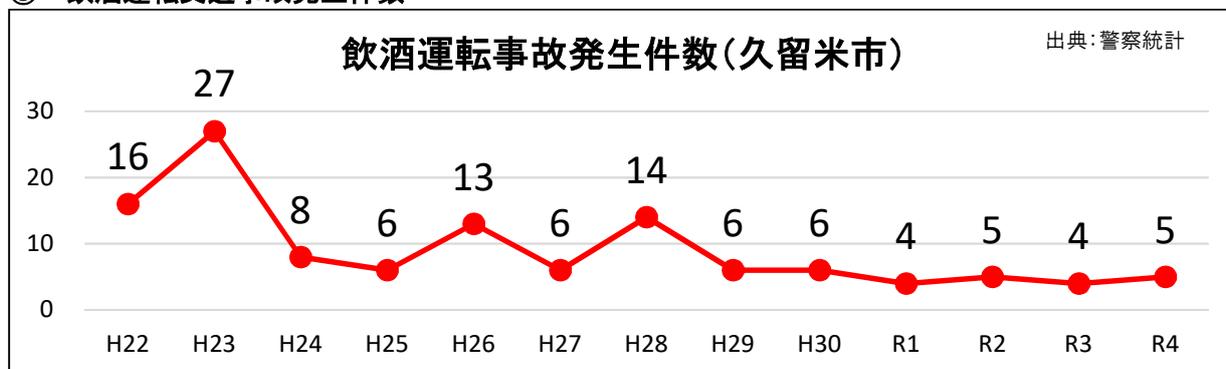
また、10万人あたりの割合は、依然として県より高い水準にある。

④ 自転車の交通事故発生件数



自転車の交通事故発生件数は、平成 25 年以降減少傾向であり、県との差も縮まっている。

⑤ 飲酒運転交通事故発生件数



飲酒運転による交通事故発生件数は、減少傾向にあるが、飲酒運転の撲滅には至っていない。

＜具体的施策（4 2 施策）の個票＞

交通安全対策委員会

個票

【高齢者事故防止】1—① 運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施							
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い ・高齢者が加害者となる事故の割合が増加している 					
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない ・運動能力や身体機能の変化に応じた行動が取れていない 					
目標	高齢者関連事故の減少、高齢者が第一当事者となる交通事故件数（割合）の減少						
内容	歩行中や自転車・自動車運転中に自らの運動能力等を自覚した行動を意識してもらうため、様々な機会を捉えた講習を実施するとともに、運転免許の自主的な返納に関する啓発を行う。						
対象者	一般市民（高齢者）						
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、老人クラブ連合会等関係団体、警察、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会の開催 ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
2022 年度の実績 及び 改善した点等	<p>○高齢者交通安全講習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人会など地域の高齢者向けに講習を実施。[警察] (12 回) ・出前講座を実施 [市] (3 回) <p>○高齢運転者を対象とした体験型の交通安全講習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車学校の協力のもと、交通安全協会等と連携し、高齢者に自らの身体機能等を自覚した行動を意識してもらうため、体験型の交通安全講習「シルバーセーフティスクール」を実施[警察] (2 回) <p>○交通安全イベント等における高齢者ドライバー事故防止啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季の交通安全運動に合わせたキャンペーン等の中で、高齢者ドライバーの事故防止を啓発 (9 回) <p>○地域での自主的な交通安全啓発活動のための啓発物の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導員等が地域で自主的に実施している交通安全啓発活動を支援するため、チラシ等を提供（南、津福校区） <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、キャンペーン等の啓発活動は中止、又は規模を縮小</p>						
2023 年度の方針 及び 課題等	<p>SNS や各団体の広報紙・催事等を活用した啓発</p> <p>運転免許証自主返納等の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転免許証の自主返納等に関する支援を実施し、運転に不安を抱える人やその家族に自主返納制度の利用について考えてもらうきっかけを作り、事故の予防に繋げる <p>運転免許制度の変更や交通に関する情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法改正に伴う、「安全運転サポート車等限定条件付免許」の新設や更新手続きの変更を含めた交通安全情報の提供 <p>交通安全指導員への情報提供や啓発物の提供等による地域での活動支援</p>						
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	①高齢者対象交通安全講習の実施回数	回	50	35	16	7	12
	②高齢ドライバー向け啓発活動の実施回数	回	12	11	2	1	6
【短期】認識・知識	講習参加者の意識の変化[アンケート] 受講前後で「体調が優れない時は運転を控える」等、安全行動に対する意識の変化	%	2021 年より実施			100%	73.4
【中期】態度・行動	運転免許自主返納者数[警察統計]	人	1,154	1,035	944	884	793
【長期】状況	①第 1 当事者となる高齢者の交通事故発生件数	件	436	350	296	295	279
	②全事故件数に占める①の割合	%	20.3	20.1	22.4	25.0	23.3

【高齢者事故防止】1-② 明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施							
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い ・薄暮時から夜間にかけての事故は、死亡事故や重傷事故になる割合が高い 					
	主観的課題	高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない					
目標	薄暮時・夜間の高齢者関連交通事故件数（割合）の減少						
内容	夜間・薄暮時の外出時に車両から早期に発見されることで交通事故を回避するため、高齢者に対して、明るい服や反射材の着用を促す街頭キャンペーンを実施する						
対象者	一般市民（高齢者）						
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、老人クラブ連合会等関係団体、警察、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会の開催 ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
2022年度の実績及び改善した点等	<p>○学生等との協働による交通安全イベント実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の交通安全運動期間に、筑水高校、あかつき幼稚園、警察、県等とイベントを実施し、反射材と一緒に高校生が育てた花の苗を通行人に配布し、交通事故防止を呼びかけた。 <p>○キャンペーンやイベントの機会を利用した反射材配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発の機会を利用し、警察やボランティアと連携して反射材を配布。（10回：2,960個） <p>○高齢者を対象とした交通安全講習で反射材の着用を呼びかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反射材の効果を認識してもらうことで講習の参加者に反射材の着用を促進 [警察]（12回）、[市]（3回） <p>○地域行事における交通安全啓発の支援（反射材提供）（680個）※南、津福、上津、宮ノ陣校区</p> <p>○防犯分野との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯分野の街頭啓発時等で、反射材と一緒に配布。 <p>○SNSやHP、広報誌を組み合わせた啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久留米市公式 youtube、公式 LINE に反射材の効果が分かる動画を投稿 ・広報久留米への交通安全記事の掲載や、SC通信で反射材の啓発（11月） <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、キャンペーン等の啓発活動は中止、又は規模を縮小</p>						
2023年度の方針及び課題等	<p>反射材着用等の重要性を知る機会の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSや広報紙等を活用し、反射材の効果や着用促進を周知 <p>運転免許証自主返納等に合わせた啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転免許証の自主返納された方等に反射材の効果が伝わるチラシと反射材を配布 <p>他分野との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯や高齢者安全の分野との連携 						
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	①キャンペーンの実施回数	回	12	12	5	3	10
	②出前講座の実施回数	回	11	11	1	1	3
【短期】認識・知識	講習参加者の意識の変化[アンケート] 受講後、「必ず反射材を身につけて外出するようにする」と答えた方の割合	%	72.2	72.3	74.3	80.0	41.7
【中期】態度・行動	反射材の着用率[SC実態調査(3年毎)] ※必ず身に着けている高齢者の割合	%	—	—	—	6.0	—
【長期】状況	①高齢者の薄暮時・夜間(17時～6時)における交通事故発生件数	件	152	130	87	93	84
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	件	19.0	15.9	10.5	11.1	10.0

新型コロナウイルス感染症の影響により平常とは異なる環境であることから、2020・2021年の自転車駐輪場利用者アンケートは延期

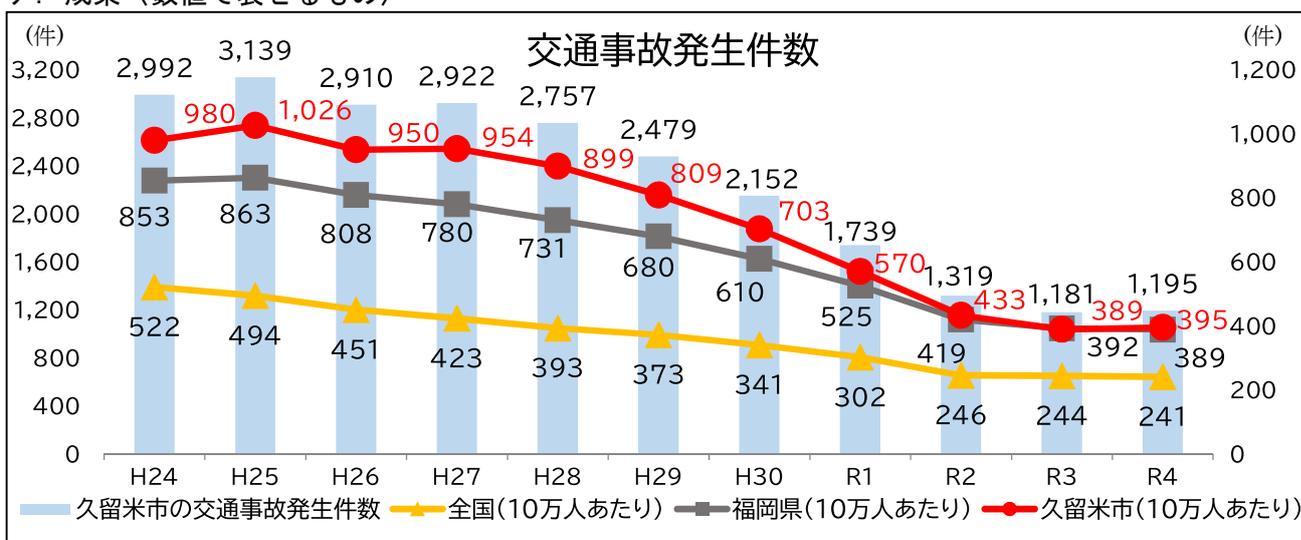
【自転車安全利用】 1-③ 交通安全教室の実施

課題	客観的課題	10 歳代の自転車事故が突出して多い						
	主観的課題	年代に応じた交通安全教育が不足 } 10 歳代前半：自転車に慣れていない 10 歳代後半：通学など行動範囲の拡大						
目標	自転車の交通事故発生件数・全事故に占める割合の減少							
内容	地域の交通安全ボランティアの協力を得て、年齢に応じた交通安全教育を実施するとともに、対象を中学生、高校生に拡大して実施							
対象者	幼稚園・保育園児、小学生、中学生、高校生							
実施者	地域交通安全活動推進委員、交通安全指導員、交通安全協会、学校、警察、市 など							
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室の実施 ・委員の所属団体や関係団体における啓発 ・チラシ、啓発グッズの作成 							
2022 年度の実績 及び 改善した点等	<p>○年齢層に応じた「交通安全教室」実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察や交通ボランティア等と連携し、児童・生徒が道路の正しい歩行や自転車に乗る前の点検方法や正しい走行について学ぶ交通安全教室を実施。 <p>○学童保育所での「セーフコミュニティ教室」開催（1 回）</p> <p>○競輪場、サイクルファミリーパークで自転車乗り方教室等を実施（2 回）</p> <p>○中央公園で親子交通安全教室を実施（1 回）</p>							
								
2023 年度の方針 及び 課題等	<p>中学生・高校生への新ルールの周知と交通安全教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車乗車時のルールの周知と、ルール・マナーを遵守し安全な行動を取るための交通安全教育の推進に向けた働きかけを行う。 <p>ヘルメットの着用促進</p>							
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022	
活動指標	①交通安全教室の実施回数	回	291	339	193	119	158	
	②参加者数	人	27,353	25,191	9,303	9,227	14,573	
【短期】認識・知識	交通ルールについて、「知っており、守っている」と答えた割合 [自転車駐車場利用者アンケート※19 歳以下]	%	70.1	75.3	—	—	81.0	
【中期】態度・行動	自転車関連事故に占める 19 歳以下の件数[警察統計]	件	119	90	57	78	75	
【長期】状況	自転車の交通事故発生件数	件	308	251	200	197	194	

【自転車安全利用】1-④自転車安全利用キャンペーンの実施							
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・10歳代の自転車事故が突出して多い ・自転車に関するルールを守らない、知らない人が多い 					
	主観的課題	自転車は車両であるという意識が低い					
目標	自転車の交通事故発生件数・全事故に占める割合の減少						
内容	駅周辺や自転車駐輪場において、自転車利用者を対象に、ルール・マナー遵守の徹底と安全利用を呼びかける街頭啓発を実施。また、家庭内での交通安全教育に繋げるため、保護者や一般市民を対象とした啓発を実施。						
対象者	中学・高校生・保護者・一般市民（自転車利用者）						
実施者	地域交通安全活動推進委員、交通安全指導員、交通安全協会、警察、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
2022年度の実績及び改善した点等	<p>○自転車安全利用啓発の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察等と連携して、自転車の安全利用を呼びかける啓発を実施（9回） <p>○市内の全小学生、中学生に自転車乗車時のヘルメット着用を呼びかけるチラシを配布</p> <p>※学校安全対策委員会と連携</p> <p>○市内の新中学生全員に自転車安全利用五則チラシ、福岡県自転車条例改正啓発チラシを配布。（1月入学説明会、3,000部）</p> <p>※防犯分野と連携し、「自転車ツーロック」を同時に呼びかけ</p> <p>○LINEやHPを活用した広報啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セーフコミュニティ通信等や久留米市公式LINE、HPで、自転車のヘルメット着用や交通ルール・マナー等について呼びかけた。 <p>○自転車のイベントでヘルメットの着用啓発</p> <div data-bbox="1085 1115 1465 1361" style="text-align: right;"> </div>						
2023年度の方針及び課題等	<p><u>自転車保険加入やヘルメット着用義務の周知・啓発</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSや広報紙のほか、様々な機会を利用して、自転車保険加入やヘルメット着用の義務について広く周知を行う。 <p><u>防犯対策委員会、学校安全対策委員会との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車利用者への安全利用啓発と併せて、防犯対策の「自転車ツーロック」の促進を行う。 ・学校安全対策委員会と協力し、自転車の交通ルール・マナーの啓発を行う。 						
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2021
活動指標	キャンペーンの実施回数、配布物数	回	18	14	3	2	9
		セット	5,000	3,400	315	800	2,120
【短期】認識・知識	交通ルールについて、「知っている」と答えた割合 [自転車駐輪場利用者アンケート※全年齢]	%	95.2	97.9	—	—	97.6
【中期】態度・行動	交通ルールについて、「知っており、守っている」と答えた割合 [自転車駐輪場利用者アンケート※全年齢]	%	69.6	79.5	—	—	80.6
【長期】状況	自転車の交通事故発生件数	件	308	251	200	197	194

重点取り組み項目	No	具体的施策名
高齢者の交通事故防止	1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施
	1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施
自転車事故の防止	1-③	交通安全教室の実施
	1-④	自転車安全利用キャンペーンの実施

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



横ばい傾向であった市内の交通事故発生件数は、平成 25 年のセーフコミュニティ国際認証取得以降、減少傾向にある。福岡県の値と大きく差が開いていた人口 10 万人当たりの交通事故発生件数は、令和 4 年には同水準にまで改善した。

イ. 成果〈数値で表せないもの〉

各団体等と連携した啓発活動の実施

- ・防犯分野との連携（街頭啓発での協力）
- ・学校安全分野との連携（市内の全小中学生に自転車のヘルメット着用促進チラシを配布）

ウ. 2022 年度の取り組みで最も成功した事例

高校や幼稚園、関係団体が連携した交通安全啓発

新型コロナウイルスの感染症拡大以降、規模の縮小や中止などにより実施できていなかった交通安全フェアを、2 年ぶりに実施した。県や警察、久留米筑水高等学校の生徒、あかつき幼稚園の園児と一緒に、啓発活動を行うことで、地域の交通安全活動の機運を盛り上げた。

エ. 2022 年度で最も積極的に取り組んだ活動

SNS や動画を組み合わせた啓発

交通安全対策委員会の取り組みをまとめた動画を youtube の久留米市公式チャンネルに投稿し、市の広報誌や SC 通信、HP（市・福岡県警）、久留米市公式 LINE など連携させた広報活動を実施することで、効果的なセーフコミュニティの啓発に取り組んだ。

オ. 分野横断的に行っていること

久留米市交通安全対策協議会との連携

交通安全対策委員会の皆様に協議会幹事を兼務していただいております、交通安全対策協議会と連携しながら、ハード・ソフトの両面から取組推進を図っている。

防犯対策との連携

自転車安全利用キャンペーン時に、防犯分野の自転車盗難防止の啓発を行い、また防犯街頭キャンペーン時に反射材を配布するなど、交通安全と防犯分野で連携しながら啓発を行っている。

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

高齢者の交通事故防止（図①）

高齢者関連の交通事故発生件数そのものは減少傾向にあるが、全体に占める割合は増加傾向にある。

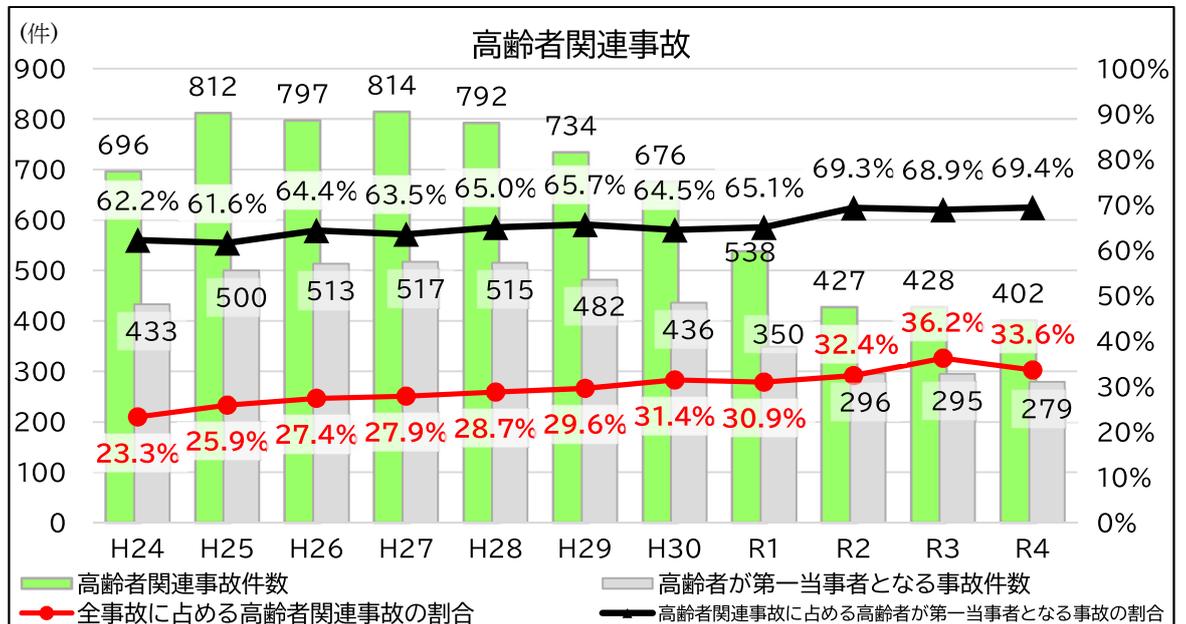
また、高齢者が加害者となる事故件数そのものも減少傾向にあるが、高齢者関連事故に占める割合は増加傾向にある。

引き続き、運動能力の変化を自覚した行動を意識してもらうための啓発を行いながら、法改正に伴う運転免許制度の変更や自主返納制度についても周知を図る。

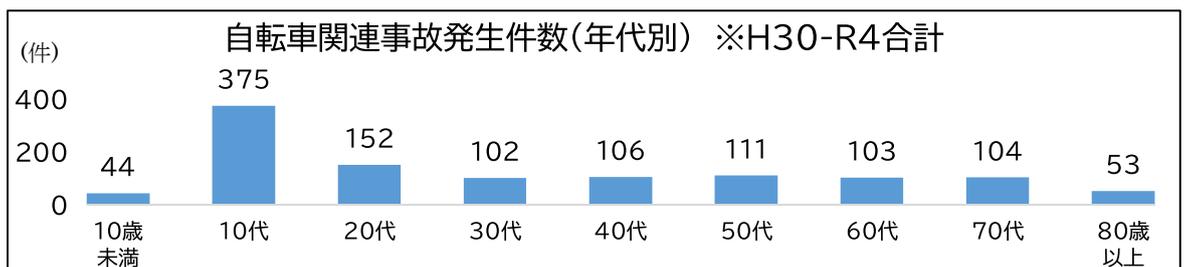
自転車関連事故防止及び交通ルール・マナーの向上（図②）

自転車関連事故は10代が突出しているため、中学・高校生の自転車安全利用の啓発を進める必要がある。また、令和5年4月から年齢を問わず自転車に乗る全ての人は、ヘルメットを着用することが努力義務化されたことを含め、全世代を対象に交通ルール・マナーの向上に取り組む必要がある。

■ 図①



■ 図②



2023年度取り組み方針

交通安全対策委員会

総括票

具体的施策	2023年度取り組み方針
<p>1-① 運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施</p>	<p><u>SNS や各団体の広報紙・催事等を活用した啓発</u> <u>運転免許証自主返納等の啓発</u> ・運転免許証の自主返納等に関する支援を実施し、運転に不安を抱える人やその家族に自主返納制度の利用について考えてもらうきっかけを作り、事故の予防に繋げる</p> <p><u>運転免許制度の変更や交通に関する情報の提供</u> ・法改正に伴う、「安全運転サポート車等限定条件付免許」の新設や更新手続きの変更を含めた交通安全情報の提供</p> <p><u>交通安全指導員への情報提供や啓発物の提供等による地域での活動支援</u></p>
<p>1-② 明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施</p>	<p><u>反射材着用等の重要性を知る機会の拡大</u> ・SNS や広報紙等を活用し、反射材の効果や着用促進を周知</p> <p><u>運転免許証自主返納等に合わせた啓発</u> ・運転免許証の自主返納された方等に反射材の効果が伝わるチラシと反射材を配布</p> <p><u>他分野との連携</u> ・防犯や高齢者安全の分野との連携</p>
<p>1-③ 交通安全教室の実施</p>	<p><u>中学生・高校生への新ルールの周知と交通安全教育の推進</u> ・自転車乗車時のルールの周知と、ルール・マナーを遵守し安全な行動を取るための交通安全教育の推進に向けた働きかけを行う。</p> <p><u>ヘルメットの着用促進</u></p>
<p>1-④ 自転車安全利用キャンペーンの実施</p>	<p><u>自転車保険加入やヘルメット着用義務の周知・啓発</u> ・SNS や広報紙のほか、様々な機会を利用して、自転車保険加入やヘルメット着用の義務について広く周知を行う。</p> <p><u>防犯対策委員会、学校安全対策委員会との連携</u> ・自転車利用者への安全利用啓発と併せて、防犯対策の「自転車ツーロック」の促進を行う。 ・学校安全対策委員会と協力し、自転車の交通ルール・マナーの啓発を行う。</p>

	7月31日（月）	8月1日（火）
9:00	全体概要 〈9:00～10:00〉	⑤交通安全対策委員会 〈9:00～10:00〉
10:00	外傷等動向調査委員会 〈10:15～11:15〉	⑥防犯対策委員会 〈10:15～11:15〉
11:00	①児童虐待防止対策委員会 〈11:30～12:30〉	⑦DV防止対策委員会 〈11:30～12:30〉
12:00	昼食	昼食
13:00	市内視察 〈90分〉 ※移動含む	⑧自殺予防対策委員会 〈14:00～15:00〉
14:00	②防災対策委員会 〈15:00～16:00〉	審査員ミーティング 〈15:10～15:50〉
15:00	③学校安全対策委員会 〈16:15～17:15〉	審査員講評 〈16:00～17:00〉
16:00	④高齢者の安全対策委員会 〈17:30～18:30〉	
17:00		
18:00		

(1) 交通安全対策委員会

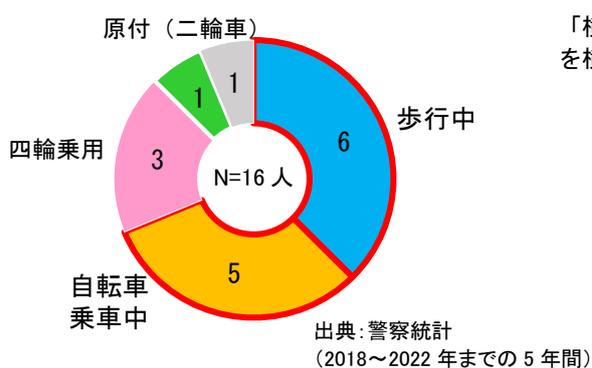
久留米市の交通事故の状況を見ると、高齢者関連の事故が増加する中で、交通事故による死亡者の約半数が高齢者であることや、自転車は死亡・重傷事故につながりやすいことなどから、交通安全対策委員会では「高齢者の交通事故防止」と「自転車事故の防止」を重点項目に設定して取り組みを進めています。【図表 27】【図表 28】【図表 29】【図表 30】

[高齢者の交通事故]

高齢者については、「歩行中」や「自転車」の交通死亡事故が多くなっています。

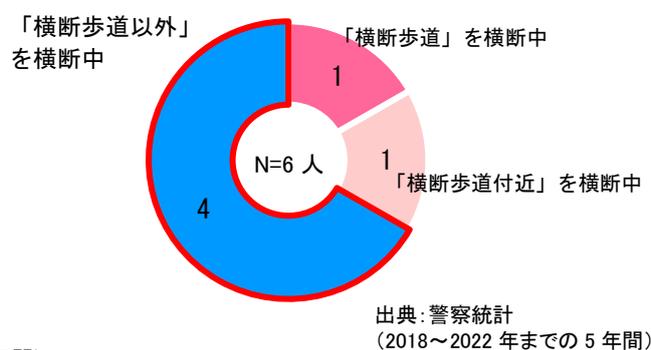
また、横断中以外を歩行中の事故が多いことから、運動能力や身体機能の変化に応じた行動が取れていない高齢者が多い状況にあります。

図表62 高齢者の状態別死亡事故発生状況



高齢者は「歩行中」や「自転車乗車中」による死亡事故が多い

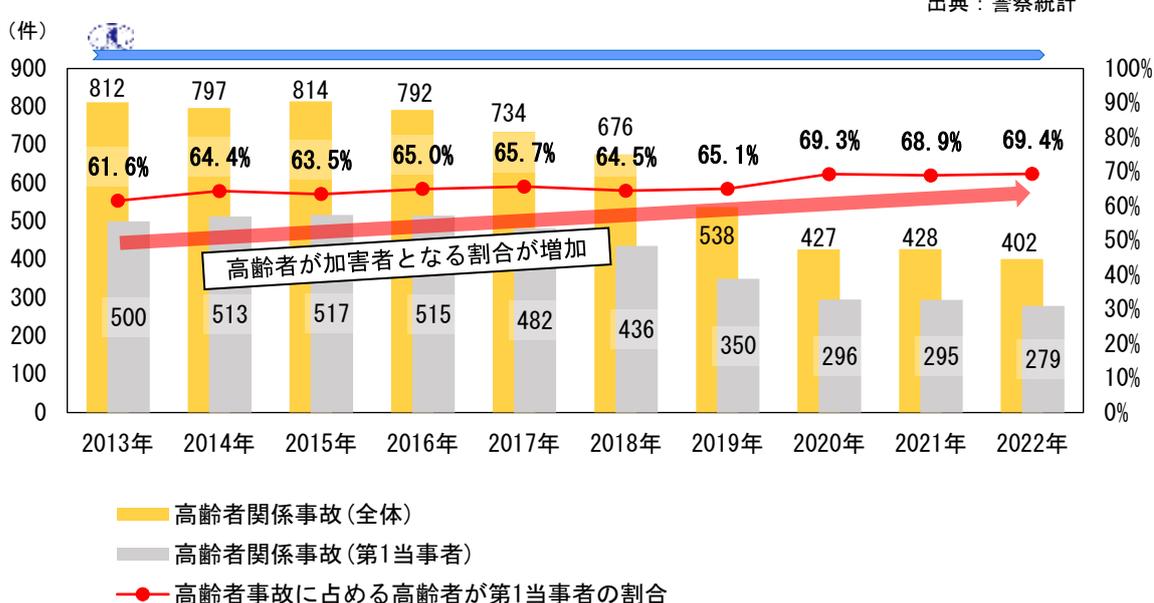
図表63 高齢者の歩行箇所別死亡事故の割合



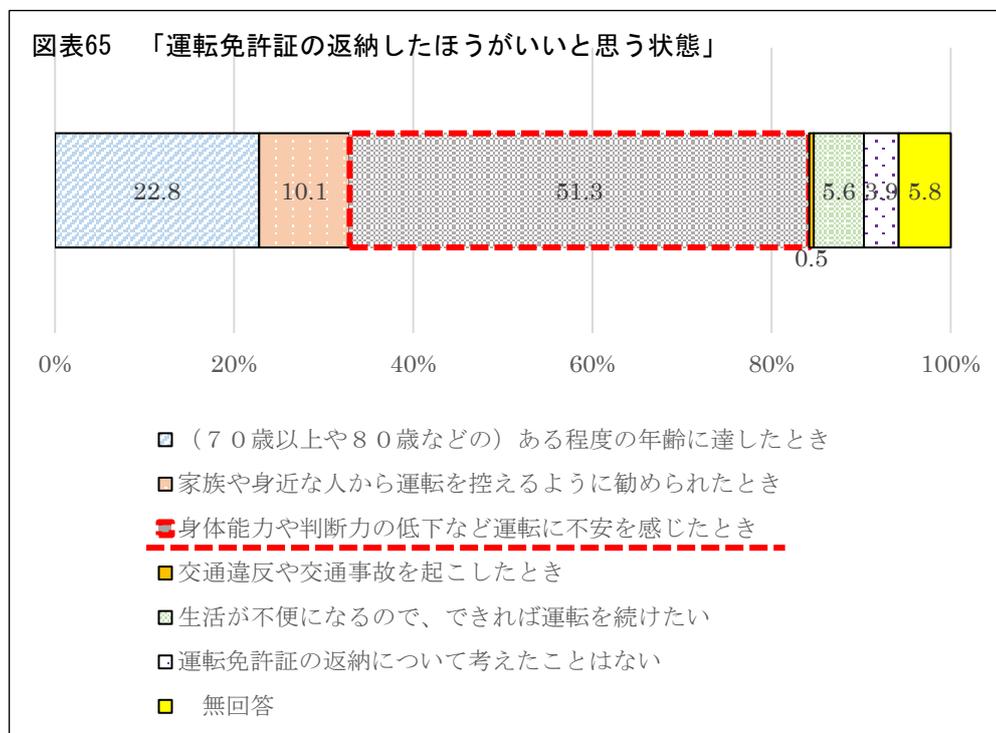
高齢者の歩行中の死亡事故は、「横断歩道以外を横断中」に多く発生している

さらに近年、高齢ドライバーが第1当事者(加害者)となる事故の割合が増加していることを受け、交通安全対策委員会では、認証後の新たな課題として「高齢者の加害事故」を設定し、事故防止の取り組みを進めています。

図表64 高齢者関連事故に占める第1当事者(加害者)の割合



身体能力や判断能力の低下など運転に不安を感じたときに、運転免許証の返納したほうがいいと思うと答えた方が多いことから、運動能力や身体機能に着目した啓発・講習を実施しています。



出展：2021年久留米市セーフコミュニティに関する実態調査

昼間に比べ、薄暮時及び夜間（17時～朝6時）は、死亡事故、重傷事故の割合が高く、状態別の発生状況を勘案すると、高齢者は夜間歩行中（道路横断中）に交通死亡事故に遭うリスクが高い状況にあります。

しかし、高齢者の80%以上が、夜間外出する際に「反射材を身に着けていない・ほとんど身に着けていない」と回答し、その理由として60%以上の人々が「反射材を持っていない」という状況です。

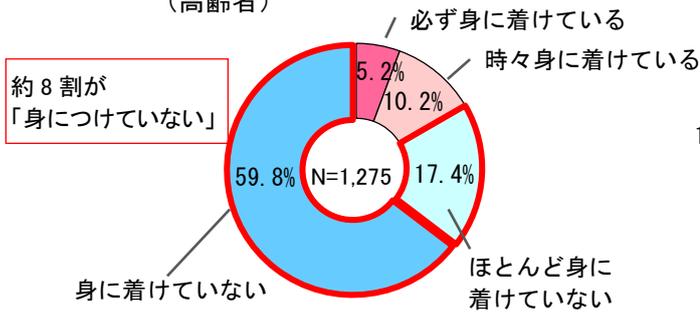
図表 66 高齢者関連の時間帯別交通事故発生状況

昼間(6時～17時)			夜間(17時～6時)		
交通事故発生件数	1,925件	割合	交通事故発生件数	979件	割合
うち死亡事故件数	9件	0.47%	うち死亡事故件数	20件	1.28%
うち重傷事故件数	62件	3.22%	うち重傷事故件数	79件	4.21%

※夜間の死亡事故の割合は、昼間の約2.7倍、重傷事故は1.3倍

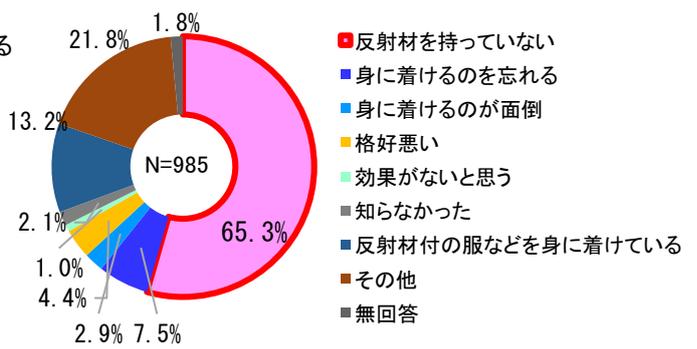
出展：警察統計（2018年～2022年）

図表67 「夜間外出する際の反射材の着用状況」
(高齢者)



出典：2021年久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

図表68 「反射材を身に着けていない理由」
(高齢者)



出典：2021年久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

[自転車事故]

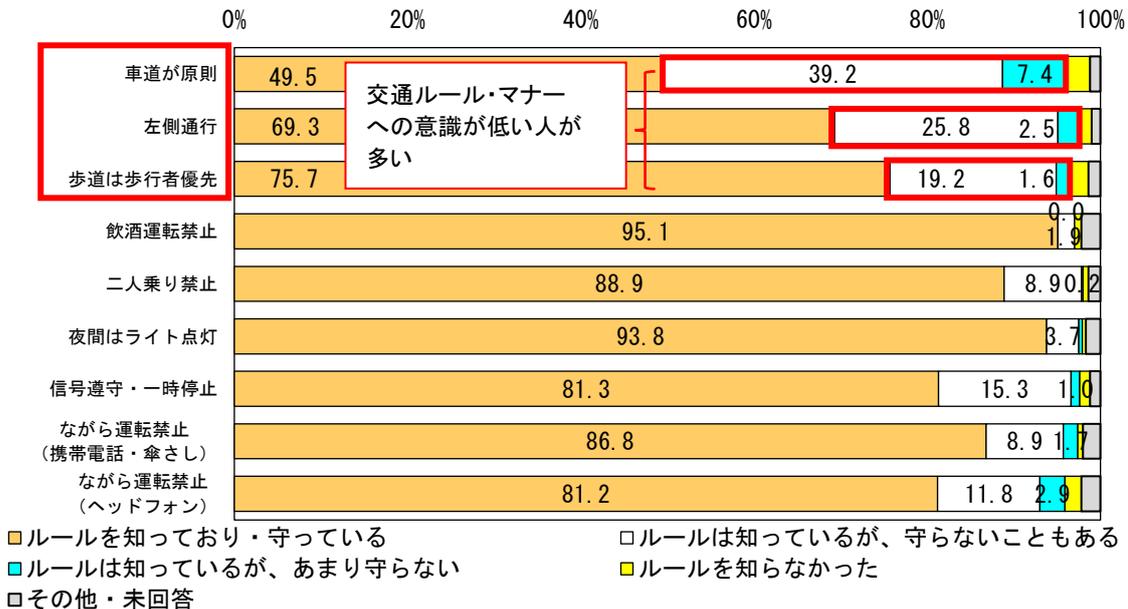
自転車の交通事故では、10歳代の件数が突出して多い状況にあります。

図表69 年代別自転車事故の発生状況



車道や歩道の通行方法を知っているが守らないが非常に多く、自転車が車両であるという意識が低くなっています。

図表70 自転車に関する交通ルールの認知状況 出典：2021年久留米市自転車利用に関するアンケート N=485



(12～84歳の自転車利用者へ「自転車に関する交通ルール」についてアンケート)

課題解決に向けた方向性と取組の整理

重点項目	課題		方向性	No.	取組（当初）	見直し	No.	取組（現在）	
高齢者の交通事故防止	①	客観的 高齢者の歩行中や自転車乗車中の死亡事故が多い【図表 62】	自らの体力を自覚した行動や運転を意識付け	1	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施	⇒ 継続	1	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施 [対応する課題:①②③④]	
	②	主観的 運動能力や身体機能の変化に応じた行動が取れていない							
	③	客観的 高齢者が加害者となる事故が増加【図表 64】							
	④	主観的 高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない							
	⑤	客観的 薄暮時から夜間の歩行中の事故が多い【図表 66】 薄暮時から夜間の事故は、死亡や重症事故になる割合が高い	ドライバーからの早期発見	2	明るい服や反射材の着用キャンペーンの実施		⇒ 継続	2	明るい服や反射材の着用キャンペーンの実施 [対応する課題:①④⑤]
	⑥	主観的 どこで事故が起きているか知らない	交通危険箇所の把握	3	安全安心マップの作成		⇒		1に統合 全体的な事故防止啓発の中で、市内で発生する事故の場所や特徴など、交通安全に関する情報提供を行う
自転車事故の防止	⑦	客観的 10歳代の自転車事故が突出して多い【図表 69】	指導者確保による教室の充実	4	交通安全教室の実施	⇒ 継続	4	交通安全教室の実施 [対応する課題:⑦⑧]	
	⑧	主観的 年齢に応じた交通安全教育が不足							
	⑨	客観的 自転車に関するルールを守らない・知らない人が多い【図表 70】	安全利用の意識付けやルール遵守の徹底	5	自転車安全利用キャンペーンの実施		⇒ 継続	5	自転車安全利用キャンペーンの実施 [対応する課題:⑦⑨⑩]
	⑩	主観的 自転車は、車両であるという意識が低い							

【高齢者事故防止】1—① 運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い ・高齢者が加害者となる事故が増加している 					
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない ・運動能力や身体機能の変化に応じた行動が取れていない 					
目標	高齢者関連事故の減少、高齢者が第一当事者となる交通事故件数（割合）の減少						
内容	歩行中や自転車・自動車運転中に自らの運動能力等を自覚した行動を意識してもらうため、様々な機会を捉えた講習を実施するとともに、運転免許の自主的な返納に関する啓発を行う。						
対象者	一般市民（高齢者）						
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、老人クラブ連合会等関係団体 警察、市 など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会の開催 ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
5年間の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・警察や自動車学校、地域で交通安全活動に取り組む方と連携し、運動能力等に応じた行動を意識付ける実技体験型講習とした。 ・警察や関係団体等との協働により、街頭キャンペーンや四季の交通安全県民運動期間中のイベント等で随時、周知を図っている。 ・高齢ドライバーによる交通事故の増加を受け 2020 年から 2021 年まで国が実施した、アクセルとブレーキの踏み間違い防止装置や、急発進抑制装置、衝突警報装置等の交通事故の防止に効果がある機器の購入補助制度に合わせ、民間企業と連携した同機器の体験型啓発を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため啓発活動を実施できなかった時期は、ローカルテレビで交通安全を呼びかける動画を放送する等、手法を変えて高齢者に交通安全を呼びかけた。 						
質的成果	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業との連携した啓発の実施 ・民間企業からの自動車に取り付ける交通事故の防止に効果がある機器の寄付 						
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	①実技型高齢者交通安全講習の実施回数	回	50	35	16	7	12
	②高齢ドライバー向け啓発活動の実施回数	回	12	11	2	1	6
【短期】認識・知識	旧 講習参加者の意識の変化[アンケート] 受講後、「必ず反射材を身につけて外出するようにする」と答えた方の割合	%	72.2	72.3			
	新 講習参加者の意識の変化[アンケート] 受講前後で「体調が優れない時は運転を控える」等、安全行動に対する意識の変化	%			見直し後⇒	100	73.4
【中期】態度・行動	運転免許自主返納者数[警察統計]	人	1,154	1,035	944	884	793
【長期】状況	①第1当事者となる高齢者の交通事故発生件数[警察統計]	件	436	350	296	295	279
	旧 ②高齢者人口1万人対の①の件数[警察統計]	件					
	新 ②全事故件数に占める①の割合[警察統計]	%	20.3	20.1	22.4	25.0	23.3

【高齢者事故防止】1-② 明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施							
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い ・薄暮時から夜間にかけての事故は、死亡事故や重傷事故になる割合が高い 					
	主観的課題	高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない					
目標	薄暮時・夜間の高齢者関連交通事故件数（割合）の減少						
内容	夜間・薄暮時の外出時に車両から早期に発見されることで交通事故を回避するため、高齢者に対して、明るい服や反射材の着用を促す街頭キャンペーンを実施する						
対象者	一般市民（高齢者）						
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、老人クラブ連合会等関係団体、警察、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会の開催 ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
5年間の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・警察や関係団体等との協働により、街頭キャンペーンや四季の交通安全県民運動期間中のイベント等で随時、周知を図るとともに、老人クラブ連合会の総会やグラウンドゴルフ大会など、高齢者が集まる行事に出向き、啓発チラシとともに反射材を配布し、着用を呼びかけている。 ・小学校区毎にいる交通安全指導員と連携した地域のイベント等での反射材の配布活動や、出前講座による反射材の啓発活動を実施し、地域での普及啓発に努めた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>						
質的成果	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策分野との連携 走りながら防犯活動を行うグループに反射材を提供し、防犯活動と一緒に反射材を配布してもらおう。 ・老人クラブや地域活動団体と連携した啓発の実施。 						
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	①キャンペーンの実施回数	回	12	12	5	3	10
	②出前講座の実施回数	回	11	11	1	1	3
【短期】認識・知識	講習参加者の意識の変化[アンケート] 受講後「必ず反射材を身につけて外出するようにする」と答えた方の割合	%	72.2	72.3	74.3	80.0	41.7
【中期】態度・行動	反射材の着用率[SC実態調査(3年毎)] ※必ず身に着けている高齢者の割合	%	—	—	—	6.0	—
【長期】状況	旧 ①高齢者の夕方・夜間(15時～21時)における交通事故発生件数[警察統計]	件	237	190	158	140	130
	新 ①高齢者の夕方・夜間(17時～6時)における交通事故発生件数[警察統計]	件	152	130	87	93	84
	旧 ②高齢者人口1万人対の上記件数[警察統計]	件	29.6	23.2	19.0	16.7	15.5
	新 ②高齢者人口1万人対の上記件数[警察統計]	件	19.0	15.9	10.5	11.1	10.0

【自転車安全利用】 1-③ 交通安全教室の実施

課題	客観的課題	10歳代の自転車事故が突出して多い					
	主観的課題	年代に応じた交通安全教育が不足 } (10歳代前半：自転車に慣れていない 10歳代後半：通学など行動範囲の拡大)					
目標	自転車の交通事故発生件数・全事故に占める割合の減少						
内容	地域の交通安全ボランティアの協力を得て、年齢に応じた交通安全教育を実施するとともに、対象を中学生、高校生に拡大して実施						
対象者	幼稚園・保育園児、小学生、中学生、高校生						
実施者	地域交通安全活動推進委員、交通安全指導員、交通安全協会、学校、警察、市 など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室の実施 委員の所属団体や関係団体における啓発 チラシ、啓発グッズの作成 						
5年間の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内の小学校、中学校、高校などで交通安全教室を実施 警察や地域で交通安全活動に取り組むかたと連携し、成長に合わせて繰り返し交通安全教育を受ける機会を作ることで、交通ルール・マナーの定着を促した。 保護者向け交通誘導教室の開催や、中学校新入学説明会時での自転車安全利用チラシ配布など、教室以外での啓発活動にも努めている。 公園や自転車遊戯施設で開かれるイベントに合わせて交通安全教室を実施。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため交通安全教室を実施できなかった時期は、交通安全DVDを貸し出して動画視聴による交通安全教育の実施や、交通安全を呼びかけるアナウンス用原稿を小学校に配布し、児童自ら主体的に交通安全に取り組めるよう支援した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>						
質的成果	・市内の小学校が、交通安全子ども自転車全国大会に出場						
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	①交通安全教室の実施回数	回	291	339	193	119	158
	②参加者数	人	27,353	25,191	9,303	9,227	14,573
【短期】認識・知識	交通ルールを「知っており、守っている」と答えた割合 [自転車駐車場利用者アンケート※19歳以下]	%	70.1	75.3	—	—	81.0
【中期】態度・行動	自転車関連事故に占める19歳以下の件数[警察統計]	件	119	90	57	78	75
【長期】状況	自転車の交通事故発生件数[警察統計]	件	308	251	200	197	194

【自転車安全利用】 1-④ 自転車安全利用キャンペーンの実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・10歳代の自転車事故が突出して多い ・自転車に関するルールを守らない、知らない人が多い 					
	主観的課題	自転車は車両であるという意識が低い					
目標	自転車の交通事故発生件数・全事故に占める割合の減少						
内容	駅周辺や自転車駐車場において、自転車利用者を対象に、ルール・マナー遵守の徹底と安全利用を呼びかける街頭啓発を実施。また、家庭内での交通安全教室に繋げるため、保護者や一般市民を対象とした啓発を実施。						
対象者	中学生・高校生・保護者・一般市民（自転車利用者）						
実施者	地域交通安全活動推進委員、交通安全指導員、交通安全協会、警察、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
5年間の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回程度、関係機関・団体等と連携し、自転車利用者を対象とした街頭啓発キャンペーンを行うとともに、警察による指導・取締りも併せて実施。（防犯分野と連携） ・自転車乗車時のヘルメット着用促進チラシを市内の全小中学生に配布 ・法改正により全年齢を対象として自転車乗車時のヘルメットの着用が努力義務化されることに伴い、広報誌やHP、SNSを連携させた啓発を実施。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>						
質的成果	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用した啓発の実施 ・防犯対策分野との連携 						
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	キャンペーンの実施回数、配布物数	回	18	14	3	2	9
		セット	5,000	3,400	315	800	2,120
【短期】認識・知識	交通ルールについて「知っている」と答えた割合 [自転車駐車場利用者アンケート※全年齢]	%	95.2	97.9	—	—	97.6
【中期】態度・行動	交通ルールについて「知っており、守っている」と答えた割合 [自転車駐車場利用者アンケート※全年齢]	%	69.6	79.5	—	—	80.6
【長期】状況	自転車の交通事故発生件数[警察統計]	件	308	251	200	197	194